

だまされ続けて 29 年！ 覚えてますか？消費税と消費増税の歴史ダイジェスト

西暦	内閣	税率	導入の理由	結果	考察
1989 年	竹下登	3%	「財政再建と、高齢化社会に対応する社会保障の充実のため」	一般会計に繰り入れるため、実際の予算配分で消費税分の税収がそのまま充てられるわけではない。	ここまでの 22 年間、消費税の税収は 238 兆円。 しかし、同じ時期に大企業などの法人 3 税は、相次ぐ減税と景気の低迷のなかで、223 兆円の税収減。消費税収が、そっくり法人税の穴埋めにされてしまったのと同じ結果
1997 年	橋本龍太郎	5%	このときの理由は「財政構造改革」	実際には日本をデフレ不況に突き落とした。	
2012 年	野田佳彦	5%⇒8%	「税と社会保障の一体改革」	消費税率を 2014 年に 8%、15 年に 10%に引き上げる法案を提出。8 月 10 日、参院本会議で可決成立。	
2014 年	安倍晋三	8%	消費税率の引上げ分は、全額、社会保障の充実と安定化に使われます (政府広報)	増えた税収の 8 割を借金返済に使われた	
2017 年	安倍晋三		消費増税分を教育財源とすることを打ち出す	2% の消費税増税分は 5 兆 4000 億円の財源になります	

安倍政権が消費税を 8%に引き上げた 2014 年、政府広報では「消費税率の引上げ分は、全額、社会保障の充実と安定化に使われます」と大々的に謳っていましたが、同年12月に行われた衆議院の総選挙で安倍首相率いる自民党は「消費税財源は、その全てを確実に社会保障に使い、平成 29 年 4 月までの間も、着実に子ども・子育て支援、医療、介護等の充実を図ります」とする公約を発表しています。



今回の衆議院解散で、前回公約が守られていないことを自ら暴露。

消費税導入後の 29 年の歴史を振り返れば、消費税を上げる度に消費は落ち、税収が下がってきた。これまでの自民党政権で、増税の口実は常に耳触りのいい口実をぶち上げてきた。言った通りに予算の配分をしてきたか？ 29 年間、有権者は騙され続けてきたではないか。
この政策による消費増税で負担感が増すのは消費者ではなく、年間売上 1000 万円超の事業主、飲食店、中小企業で、間違いなく消費税納税時期に資金繰りを圧迫する。
安倍政権の政治姿勢でこの国をどこへ連れて行こうとしているか、冷静に考えて欲しい。